

息子が生きた証し

NPO法人とらまる保育園（北島町）の理事長後藤寛司さん（57）＝藍住町勝瑞＝は、北島町と横浜市で保育園3園の経営に携わる。もともと不動産業を中心にしていたが、保育事業にシフトした。そこには16年前に亡くなった一人息子、慶太さん＝享年（11）＝への思いがある。

藍住町内に不動産会社を設立した翌年の1998年10月10日。後藤さん夫妻にとって待望の長男である慶太さんが生まれた。しかし、慶太さんはぐったりとしたまま、泣き声も上げなかった。翌日、徳島市の病院に救

急車で運ばれた。医師から脳へのダメージは大きかった。は「くも膜下出血を起こしている。今日一日が最後になるかもしれない」と告げられた。

「世界の終わり」とはこのことだと思った」と後藤さん。慶太さんは一命を取り留めたものの、

数年後、シングルマザー



お昼寝タイムに園児を見守る後藤さん（右）
＝横浜市のすくすくキッズとらまる保育園

後藤 寛司さん（57）藍住町

とらまる保育園
理事長

「待機児童」知り参入決意

は、重篤な病気で同い年の子らが相次いで亡くなっていた。だからこそ、保育をやるべきではないか」

「深い悲しみを知る僕らだからこそ、保育をやるべきではないか」

約6年前、不動産業から身を引き、保育園の運営に

4月、藍住町に保育園（現在は別の法人が運営）を開設。06年4月には北島町に「とらまる保育園」を新設した。不動産業の経営が安定していたことも、保育事業への参入を後押しした。4月1日からは、横浜市で小規模認可保育園「すくすくキッズとらまる保育園」を運営する。同市に引

慶太さんは言葉を発することができず、流動食で栄養を取った。首が据わらなかつたため、一日のほとんどをベッドで過ごした。

それでも後藤さんは「親子で笑い合いたい」と、毎日のように頭元で笑い声を上げ続けた。慶太さんもつられて笑顔を見せた。

11歳になったばかりの09年10月下旬のことだった。朝、呼吸ができない状態になり入院。2週間後、脳死状態と診断された。

「限界まで生きてくれた。ありがとう」。人工呼吸器を外す際、後藤さんが手を握りしめると、「ぐうっと握り返し、死んでいった」。

「とらまる」は、慶太さんがとら年生まれだったことと関係がある。「園児、保護者、地域住民、職員ら全ての人が喜んでもらうのが大事。慶太が生きた証しでもある『とらまる保育園』を大切に育てていきたい」。

（岸和弘）